

第47回

和の情

WA no COCORO

勉強会

歴史、神話、宗教、哲学、文学、科学等から
日本人の原点なる「こころ」を読み解き
誇り、能力、価値観、感性を取り戻すため
何でもあるの半分ふざけた学びの会

セミナー形式で考えを深めたり
気づきのシェアをしながら意見交換したり
ワークショップ形式で実践したり
形は様々で毎回テーマを絞って学びます

10月のテーマ「平」



これまでのテーマ

料^九器^上葱^上元^上鼠^上成^上律^上
相^上經^上字^上季^上遊^上白^上
結^上閃^上吹^上表^上圓^上幽^上
辨^上知^上雅^上為^上不^上即^上
樂^上諦^上籠^上克^上瓶^上芥^上
念^上月^上捨^上如^上朗^上志^上
誇^上道^上味^上鑄^上天^上平^上

本日の予定

一 山場と平場

二 ハレとケ

三 ハレ・ケ・ケガレ

四 ハレとケガレ

五 ハレとケガレのリズム

六 ケとは？

七 ケの暮らし

八 ケジメ

九 ツルギとタチ

山場と平場

山場（佳境）

ハイライト

酣（たけなわ）

物事の真っ盛り

非日常

平場

ローライト

閑（たけなわ）

半ば過ぎ、遅い

日常



日々の仕事と晴れ舞台

コツコツと同じ作業を何度も繰り返す**匠の技**と**子供の遊び**



ハレとケ

非日常

晴着

霽

ハレ

日常

褌着

褌

ケ



柳田國男

1875.7.31-1962.8.8

民俗学者

共同討議

ハレ・ケ・ケガレ

桜井徳太郎・谷川健一・坪井洋文
宮田 登・波平恵美子



日本における〈聖〉と〈俗〉

ハレ(晴)とは何か、ケ(褌)とは何か、ケガレ(穢)とは何か。それらは日本人の生活のなかに、どのように根を張り、どのように現象するのか。豊富な具体資料を駆使して、日本民俗学の根本テーマに挑む。

青土社

1039-400174-3978 定価1400円

定義が決着しない

ハレ・ケ・ケガレ

波平恵美子

文化人類学者
お茶の水女子大学名誉教授

ケガレ…リミナリティ（どっちつかずな状態）

死、お産、月経

聖と俗の対置関係

ハレ⇨曖昧

ケガレ⇨具体的

ケガレ⇨病い⇨祓い

桜井徳太郎

民俗学者
駒澤大学名誉教授

ハレとケ（衣食住）、ケジメをつける

区切り…オリメ、フシメ、セチビ、モノビ

飢饉⇨ケカチ 田植え⇨ケツケ

二毛作の毛⇨気⇨ケ

ケ⇨気⇨↓気枯れ

気⇨気力、精力、生命力

ハレ・ケ・ケガレ

宮田 登

民俗学者
筑波大学名誉教授

ケⅡ気、毛（植物にも通じる）

かれるⅡ枯れる、離れる

気枯（離）れ↓けがらはし、けがらひ

気病む↓病気

坪井洋文

民俗学者
國學院大學助教授

ハルⅡ天皇の宮廷での交代

ハレⅡ民衆のお祝い、家族以外との食事

ケⅡ家族での食事

谷川健一

民俗学者・地名学者
近畿大学教授

セジ（靈力）ⅡケⅡマナ

せだかこⅡセジ高き人Ⅱ気高き人

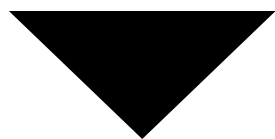
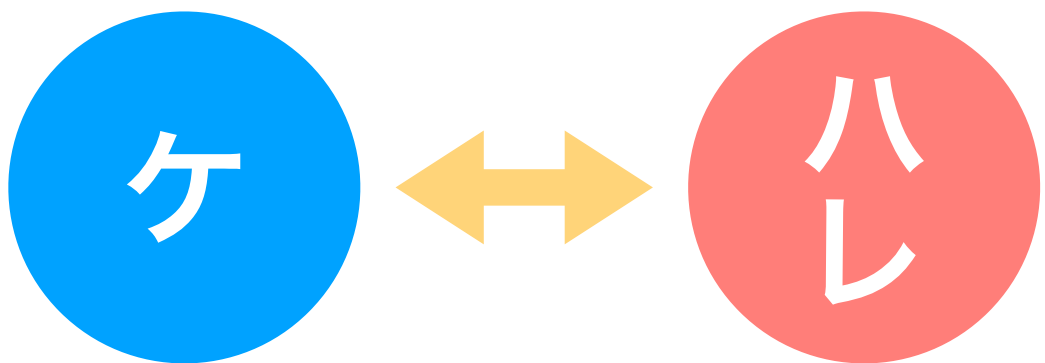
セジ高いⅡ気高い

外側から人または物にくつついた靈力

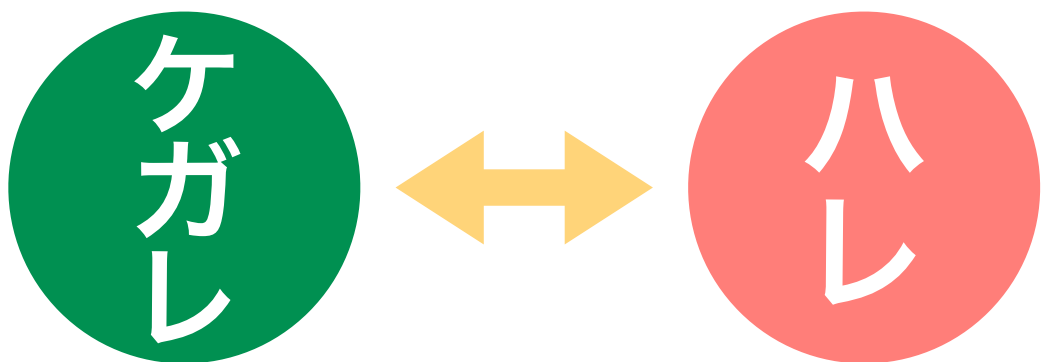
ハレとケガレ



ハレとケの対比



ハレとケガレの対比



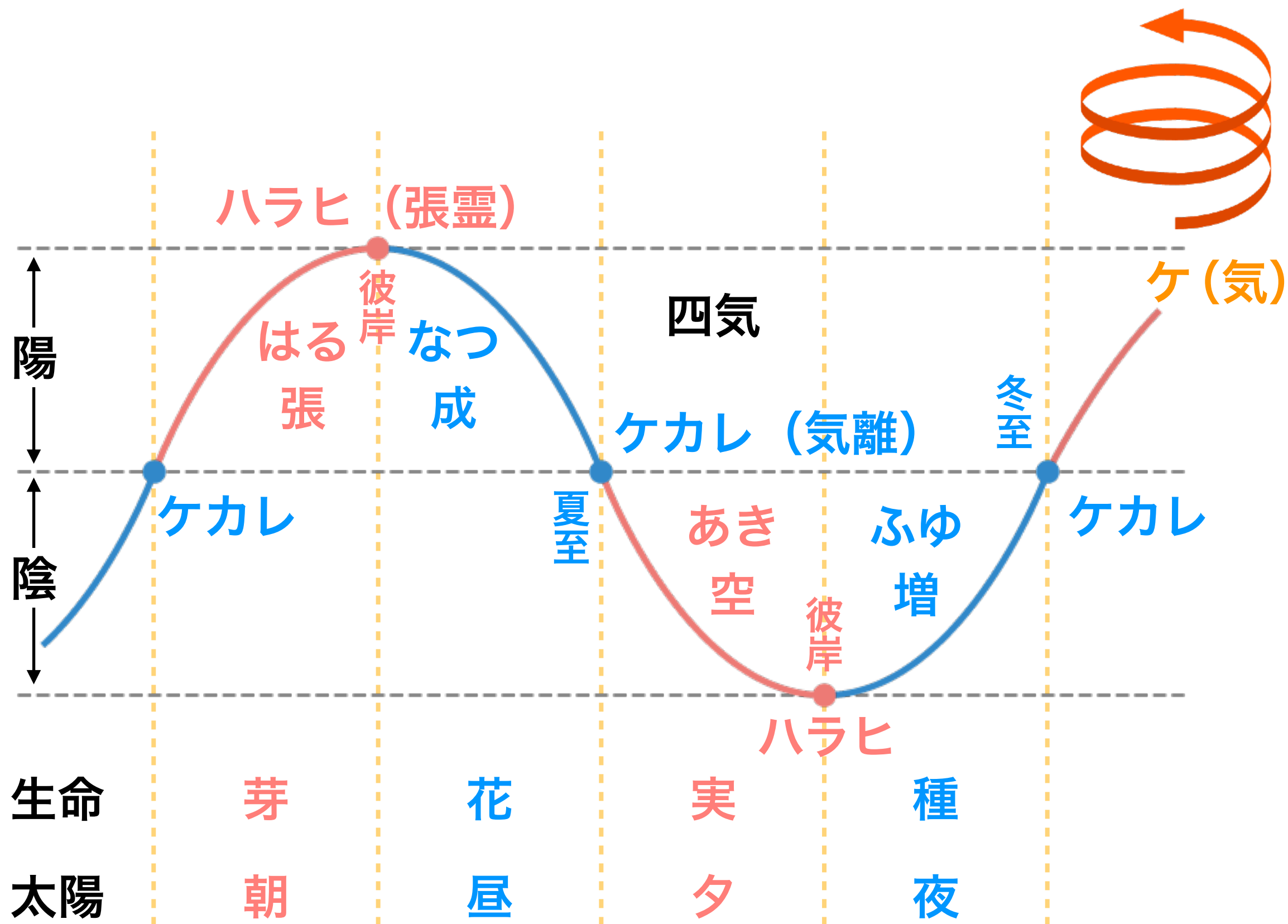
桜井徳太郎

「だから、ハレは決して到達地点ではない、プロセスの
「こまなんであって、本当はケなんだ、ケが基本だとい
うね。」

谷川健一

「そしてケがだんだん昂進していくと、ある段階でハレ
のほうに移行していただくことであって。（中略）
ケガレを回復するためにハレがあるんじゃないかと、ケの
のぼり詰めたところにハレがあるというふうに考えてい
くわけです。」

ハレとケガレのリズム



ケとは？

ケ

…上代特殊仮名遣 乙類

=

マナ

=

セジ

=

靈力

生命力

=

氣力

=

発音

吳音…ケ

漢音…キ

ケ

甲類… 祁家計係價結鷄
乙類… 氣既毛飼消

キ

甲類… 支伎岐企棄寸吉杵來
乙類… 貴紀記奇寄忌幾木城

kar

∨

kai

弥生時代

∨

ke

奈良時代

ケの暮らし

ケ ……後に漢字「褻」が当てられた

あさげ、ひるげ、ゆうげ

食事の時間Ⅱケ時

満足のでぎる食事
平穏無事な暮らし

食物が豊富にある状態Ⅱケ

ケの暮らし

気が置けない

気が抜ける

気を入れる

気が重い

気が乗る

気を失う

気が勝つ

気が早い

気を落とす

気が利く

気が張る

気を兼ねる

気が差す

気が晴れる

気を利かせる

気が知れない

気が引ける

気を砕く

気が進まない

気が減る

気を遣う

気が済む

気が紛れる

気を尽くす

気がする

気が回る

気を付け

気が急ぐ

気が短い

気を取り直す

気がそがれる

気が向く

気を抜く

気が立つ

気が揉める

気を吞まれる

気が小さい

気が若い

気を吐く

気が散る

気に掛かる

気を張る

気が尽きる

気に掛ける

気を引く

気が詰まる

気に食わない

気を回す

気が遠くなる

気に障る

気を持たせる

気が咎める

気の所為

気を揉む

気が無い

気の病

気を許す

気が長い

気は心

気を良くする

ケの暮らし

気迫 気管 気温 気道 気風 気球 気色 気孔 気相 気体 気位 気配 気魂 気味 気勢 気絶 氣息 気化

気長 気短 気楽 気安 気弱 気軽 気圧 気泡 気運 気力 気密 気転 気分 気品 気候 氣象 気丈

臭気 士気 才気 景気 天気 弱気 強気 換気 鋭気 悪気 外気 邪気 正気 冷気 熱気 生气 蒸気 病気

妖気 毒気 寒気 汁気 湿気 食気 眠気 塩気 健気 脚気 湯気 排気 堅気 和気 習気 活気 殺気 火気

乱痴気 運氣 酒気 短気 狂気 霸気 意気 磁気 水気 女気 男気 夜気 陽気 勇気

罵詈雑言の気



気障

服装・態度や物の言い方などが
気取っていて嫌味なこと。

「気障り」の約。

気色悪い

人物に対して抱く気分が悪い。
江戸では「気分」と言った。

けち

金銭や品物を出し惜しみすること、
またそのような人を罵る言葉。

また、**品物の貧弱なこと**、**不景気なこと**
不吉なことをも言う。

元来は忌まわしいことを言ったようだ。

△太平記▽匿地と訓り。

ケチはカクレ路の義。

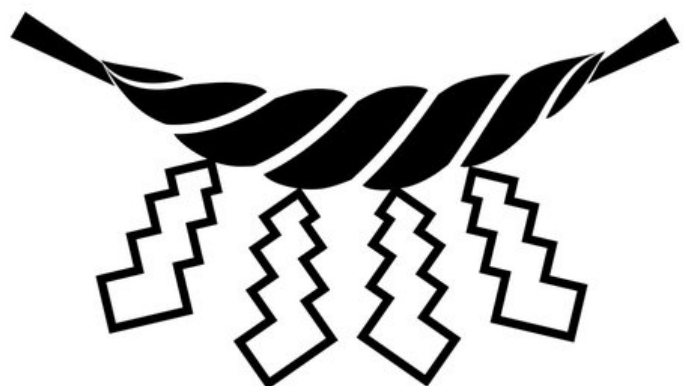
源氏物語などに：ケチは結の音也。

ケジメ

陰極陽転、陽極陰転

節目 シメ しめ縄 Ⅱ 結界

神



人





諸刃（もろは）

連気

むすび



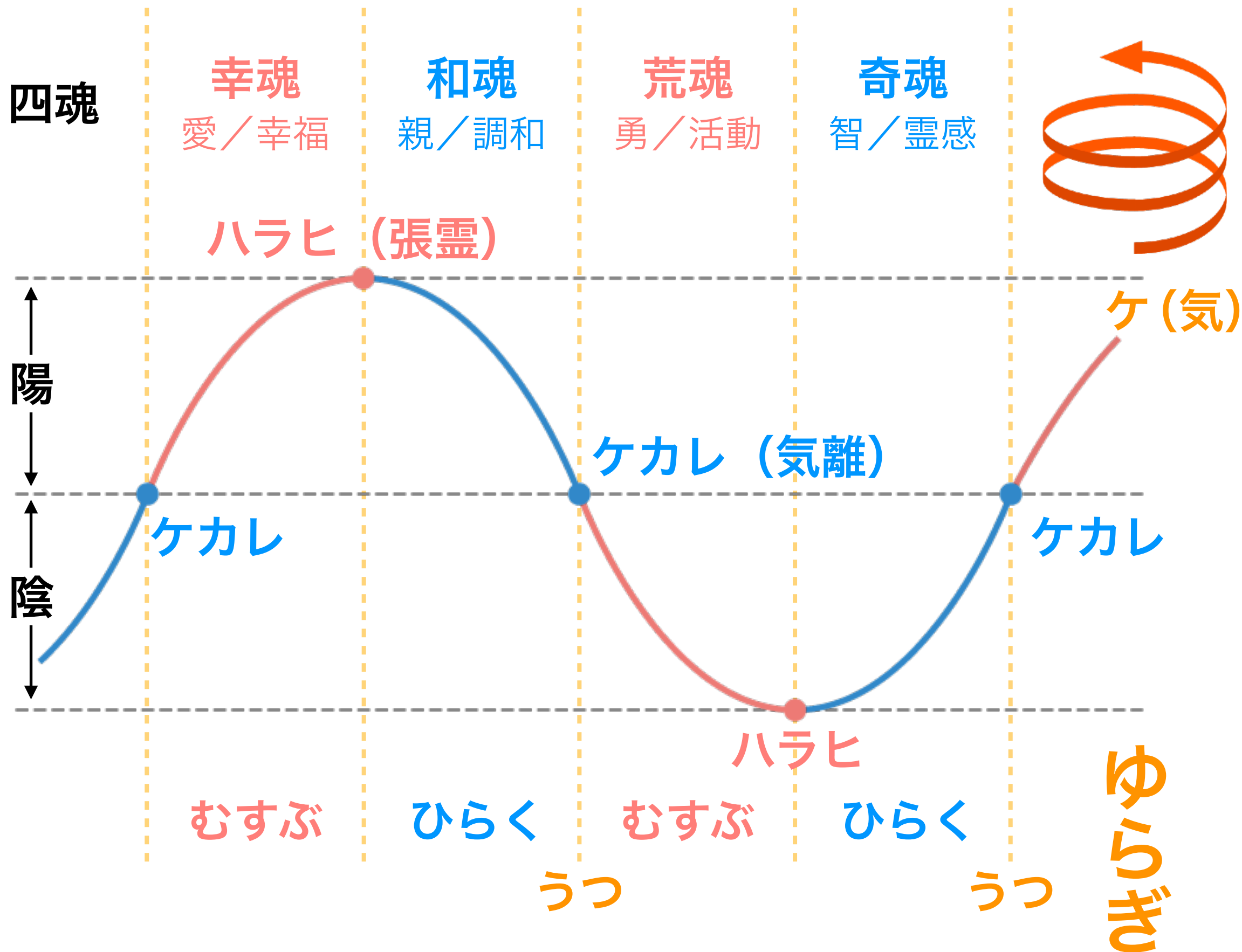
片刃（かたな）

断ち

ひらき

気

ハレとケガレのリズム



ゆらぎと気の増幅

布瑠の言

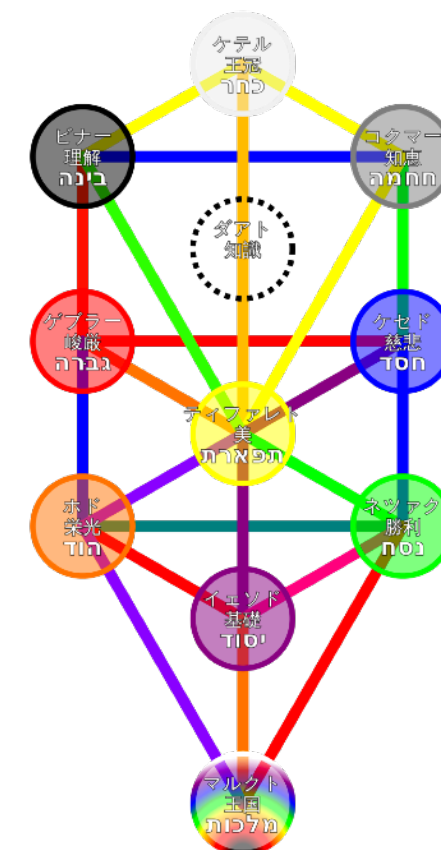
ひふみよいむなやこのたり
ふるべ ゆらゆらと ふるべ

古代の発音

pitə	ひ : 光 / 火 / 太陽
puta	ふ : 風 / 産物 / 振動
mi	み : 水 / 密 / 分子構造 / 実体化
yə	よ : 世 / 地球 / 物質世界
itu	い : 命 / 出ずる / 原始生命の誕生
mu	む : 蟲 / より複雑な進化
nana	な : 魚 / 肴 / エネルギーを取り込む
ya	や : 弥栄 / 繁栄 / 靈的に高度な生命
kəkənə	こ : 旧 / 究 / 混沌 / 終末
(pi)tə-wo	と : 陰陽 / 生死



IESVS NAZARENVS REX IVDAEORVM
ユダヤ人の王、ナザレのイエス



ひ 沖津鏡
ふ 辺津鏡
み 八握剣
よ 生玉
い 死返玉
む 足玉
な 道返玉
や 蛇比礼
こ 蜂比礼
と 品物之比礼

主が唯一の神である
偶像を作らない
神の名をみだりに唱えない
安息日を守る
父母を敬う
殺人をしない
姦淫をしない
盗まない
隣人について偽証しない
隣人の財産をむさぼらない

不殺生
不偷盗
不邪淫
不妄語
不綺語
不悪口
不両舌
不慳貪
不瞋恚
不邪見

ケテル：王冠
コクマー：知恵
ビナー：理解
ケセド：慈悲
ゲブラー：峻厳
ティファレト：美
ネツァク：勝利
ホド：栄光
イエソド：基礎
マルクト：王国
(ダアト：知識)

何気ない日常

一つ起きらば
二つ立ち
三たび散歩へ
善き日かな
意気込み入れて
無我夢中
何事もなく
やれやれと
食うも忘れて
床につく
あゝ何気なく
日々何気なく



仲井菊雄

1872.10.27-1941.4.1

文学者

『仲井菊雄詩集』

とおつ日々

仲井 菊雄

ページ [ノート](#)

[閲覧](#) [編集](#) [履歴表示](#)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

仲井 菊雄（なかい きくお、**本名**同じ^[1]、**1872年**（明治5年）**10月27日** - **1941年**（昭和16年）4月1日）は、近代日本の**詩人**・**文学者**。妻の**房枝**^[注 2]は文芸雑誌『**秋風**』の記者。**文学史**の研究が認められて**書評**・**文芸評論**を務め、晩年は**詩歌**を中心に発表するようになり、**昭和**を代表する**詩人**に数えられる。初めての**南丹市名誉市民**。

著書 〔編集〕

- 『文学史の研究』鹿宮書房　1895 年
- 『近代文学史概説』明星堂　1897 年
- 『わだつみのセレナアデ』満潮社　1902 年　のち丸川文庫
- 『夕暮れ時の朝ごはん』順風堂　1915 年
- 『芭蕉の慧眼と蕪村』順風堂　1920 年
- 『あゝ保津川』鹿宮書房　1921 年
- 『仲井菊雄詩集』第二書房　1930 年
- 『桐箱と牡丹』鹿宮書房名作叢書　1940 年

	なかい きくお <div>仲井 菊雄</div>
本名	仲井 菊雄（なかい きくお）
誕生	1872年10月27日 <div><div></div><div></div></div> 日本 ・京都府鶴ヶ岡村（現・南丹市）
死没	1941年4月1日（69歳没）
墓地	京都知恩院
職業	文学者・詩人
最終学歴	京都大学文学部中退
ジャンル	小説 <p>詩</p> <p>随筆</p>
代表作	『近代文学史概説』（1897年、論文） <p>『あゝ保津川』（1921年、随筆）</p> <p>『桐箱と牡丹』（1940年、詩集）</p> <div>テンプレートを表示</div>



和
の
情

WA no COCORO

